

正しいことを

芦北町立湯浦中学校 三年 橋口 萌

私は、道德の時間に「話したいと思うようになりましした。」という水俣病についての学習をして、もつと多くの人に水俣病のことを考え、正しい知識を持ってもらいたいと強く思いました。私自身は小学生のころから当たり前のように水俣病学習をしているはずなのに、中学生になってから新しく学ぶこともたくさんあります。このように水俣病学習は、毎年学習しても新たな発見があります。私たちが住んでいる芦北は、きれいな海の時の試合で、水俣病の正しい知識がない相手チームの人達に、少し悲しいことを言われたそうです。その出来事を聞いて、小学生の私は、とても驚き、とても悲しくなったのを覚えています。今でも思い出すと悲しい気持ちになります。このように正しいことを知らずに、水俣やその近くから来たから、という

ことで簡単に水俣病のことを口にする人はた  
くさんいるのでしよう。水俣の人々や、その  
周辺に住む人々が「水俣病」と言われて悲し  
んでいるのを私は見たくありません。だから  
こそ、私は色々な人に水俣病について考え、  
正しい知識を持ってもらいたいと思いました。  
そして今回の学習では、水俣病にかかった  
本人だけではなく、その家族や親戚の方々な  
ど、何世代にもわたって、辛い経験をしてい  
るということを知りました。同じ人間なのに  
水俣病だからという理由で差別され、伝染し  
ない病気なのに伝染する病気だと間違った知  
識をもった人々から差別をされていたことも  
再学習し、その深く悲しい思いを知りました  
私はこれから先、その人達に悲しい気持ちに  
なつて欲しくありません。そのためには、ま  
ず、何よりも、近くに住んでいる自分たちが  
水俣病に関する理解を深めることが大切だと  
思います。

今年の人権学習で環不知火プランニング代

表の森山さんの講演で、現在、水俣病の方や語り部さんが減ってきていることを知りました。水俣病の事実や体験談を教えてもらうだけではなく、その思いや願いを伝えてもらう機会が減ってきています。そのためにも私達が水俣病のことを勉強し、その方の思いをみんなに伝えていかなければなりません。これは、同じ芦北・水俣に住む若い私たちの使命かもしれない。また、水俣にある水俣病資料館に行けば、水俣病の歴史と現状を正しく認識できるし、水俣病に関する正しい理解を深めることができると思います。私も実際に水俣病学習で水俣病資料館に行き、そこで知らなかったことや多くの疑問なども解決することができました。未来のために悲惨な公害を再び繰り返してはならない、そのことを水俣病にかかった人や水俣病の学習をしている人はみんな強く願うようになります。

私達ができることは些細なことかもしれないけれど、二度と同じようなことが起きない

ようにするためには、この小さな一歩が大事な  
なのではないでしょう。水俣病にかかった  
人はもちろん、水俣や水俣周辺に住んでいる  
人達が悲しまないようにするために、一つ一  
つの人権学習や水俣病学習の時間を大切に、  
学級や学校で考え、話し合い、正しい理解を  
さらに深めていきたいと思っています。